

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念に基づき個々の目標も意識づけたケアに取り組んでいく。また、職員個々の目標も掲げ、半年毎に評価し、常に意識して取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣に昔からの手作りの豆腐屋があり、入居者と一緒に豆腐・油揚げなどを買に行き、顔なじみになっている。更なる交流を深めたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は日頃の業務の中から、運営推進会議等を通じて、地域の方達に認知症ケアの普及に努めている。ホームヘルパー2級の実習生受け入れ・福祉専門学校学生の体験学習受け入れなど、人材育成にも力を注いでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が目を通し、質の向上に向けての取り組みをしている。外部評価も全員が確認し、改善策を話し合ったり、運営者への申し出事項なども検討したり、相談する体制へ持っていくよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の席で、サービス利用状況や課題、これからの取り組み等の説明をしたり、意見交換をしているが、会議録は全ての家族の方に送付している。申し出や意見については前向きに検討し、実行に移している。また、介護保険制度に伴う情報確認や取り組み状況などを説明し、協力と理解を得るよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の窓口パンフレットや新聞を置かせてもらっている。徳島市の保護課担当者とは、情報提供など、関係づくりに努めている。運営推進会議録や届出等の書類は郵送でなく、介護保険課担当窓口へ、直接手渡しして交流を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家庭裁判所への問い合わせ、フレア徳島での勉強会など、学ぶ機会があれば積極的に参加している。勉強会で学んだことを、家族会等で説明している。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の勉強会を開き職員全員に周知していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にも通じる身体拘束委員会で定期的に勉強会、検討会、取り組み等の話し合いをしている。また、関係者や地区の中に該当者はいないか等の情報収集にも努めている。高齢者虐待防止法について勉強会をもち、対応方法などルール作りを整備し、虐待についての勉強会にも参加している。一人ひとりの精神的ストレスを抱き続けられないよう支援している。	○	今後も高齢者虐待防止法に関するより深い理解や、厳守に取り組んでいきたい。地域の中で情報収集をし、早期発見や対処に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容や疑問点への質問に対して、十分説明を行い理解、同意を得て入居いただいている。特に重度化した場合の対応の指針、治療が必要となった場合や入院中の部屋の確保など、本人様、家族様が納得して移っていただけるよう何度も話し合いをもち、支援している。また、退所先の相談にも応じている。	○ 一部の職員だけでなく全職員が窓口となれるように心がけている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の中に苦情相談受付の係りがいることが謳われている。また、玄関の表示物の中にもある。ご意見箱も設置されている。入居者の日頃の言動の中から、不平不満や不安なことなど、言いたくても言い出せないようなことはないか、思いを汲み上げる努力をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	〈家族会〉〈運営推進会議〉で事業所報告をしている。ふれあい新聞を定期的に発行し、本人様や家族の方に配布している。個々の健康状態など、ケアプランをお渡りする時や面会時に報告している。2ヶ月毎に、ご家族様へ、お便りをお出して近況報告をしている。また、お小遣い帳や預かり金チェック表を作成し、家族様の確認をいただいている。	○ 日々の様子や行事への参加の楽しい雰囲気が解るように個々にふれあい思い出づくりを作成し面会時にみている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や個々の面会時に、訴えや不満など尋ねるようにしている。意見や不満の申し出が不利につながらないように配慮している。書類を作成し、経営者側にも内容が分かるようにし、グループ全体で取り組むようになっていく。また、解決に向けての取り組みについても記録し公表している。	○ 家族会に出席されない方についても、サービスの内容や家族参加の行事等について、意見を出してもらおう機会を作りたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り等で職員から意見を聞いたり、日頃の日常会話の中からもヒントになるようなことを耳にすると、皆に諮ったりして、意見や提案を言いやすい雰囲気づくりに努めている。運営者が直接職員と話す機会は少ないが、管理者は皆の意見や希望がスムーズに届くよう働きかけをしている。	○ 業務の中で、ユニット事に話し合いの場を持ち、意見交換を行っている。日々の申し送りを記録して、読み返せるようにしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の身体の状況に合わせ、即応できるシステムを構築している。職員の急な休みは応援体制がとられている。また、人員配置を考えて外出・外食などの行事に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交替はなく、各ユニットの職員は極力固定化し、顔なじみの職員によるケアが続くよう支援している。また、日常生活の中で、行事など1F2F合同の機会を設け、夜勤等で双方がとまどわないよう工夫している。ユニットにとらわれず、入居者様同士が気軽に行き来でき、ふれあう場を持っている。	○ 研修マニュアルに乗っ取り、引きつぎの時間もとり、異動してもすぐに対応できるようにし、職員全員でフォローしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員共にケアの向上に努め、法人内の勉強会にも頻繁に参加している。ホーム外講習による学習会を企画・実施して、技術向上や資格取得に向けての取り組みに対し指導・応援している。また、年間研修計画により、計画的に研修に参加している。運営者からは研修費用の負担など、支援がある。	○ グループホーム協会や社協の研修を中心に積極的に参加している。事業所以外で開催される研修になるべく多くの職員が受講するようになりたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームと事例検討等の勉強会を重ねている。また、相互訪問をしたり情報交換をしたり、知恵を出し合ったりと切磋琢磨してサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。相互評価事業に参加をし、他所のグループホームの工夫点や取り組みを職員に紹介すると共に、今後のケアの参考にしている。今後さらに交流の機会を増やしたい。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループ総看護長・ふれあい会議、グループホーム合同会議での意見交換、悩みの相談などを行っている。また、関連機関においても相談できるシステムが整えられている。休憩時間や毎日の申し送り時などを利用して管理者は職員の日頃の疑問や思いを汲み上げる努力をしている。	○ 職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修・勉強会への参加を積極的に働きかけ、援助し、スキルアップを図っている。個人目標に対しての取り組みや資格取得に向けて努力しているのに対し、全面的に応援している。全員が有資格者となることを目指している。	○ 今後も個々の職員の意見・考えを聞き入れ向上心を持って努めていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学時、体験入所時など、実際に生活をみていただくことで、本人様は何に不安を感じているか等、思いをしっかりと汲みとり、新しい環境に対する不安軽減に努めている。また、家族様からも本人様の日頃の体調生活リズム・思いやどういふ場面で訴えが多いかなど、情報収集をしっかりと、入所後の安心感につなげるケアに活かしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自施設で難しい事はグループ内で相談・連携し、いろいろな方面でのいろいろな困り事、心配事に対処できる可能性を示し、一つ一つ不安材料を取り除く努力をしている。入所には至らないケースでも、相談に来てくれた家族の思いを聞き、共感・理解できるよう、真摯に話しを聴いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談を受けて、本人や家族が困っていること、必要な支援は何かなどを判断し、説明、相談、確認作業しながら、状況を把握し納得のいくサービスを探していくようにしている。入所以外のサービスを紹介することもある。	○	管理者が不在時でも他のスタッフが相談を受け必要なサービス見極められるよう努力し、連携を通じて広い範囲でその人にあったサービスを検討できるよう支援していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入所となるのではなく、見学をすすめたり体験入所で雰囲気を感じていただいている。レクと一緒に食事をしたり、居室の使い勝手を確認して、納得して入所していただくようにしている。少しでも転所のダメージを少なくする気配りをしている。入居前に遊びに来ていただき、施設の雰囲気を感じていただいている。不安が強いと感じる場合、家族にも協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	味付けや調理方法、コツ、季節に合った野菜などを教えてもらったり一緒にすることで共に支えあう良好な関係を築いている。その人なりのできること、できないことを分け合い、助け合うことでお互いが支えあう関係であるという意識をもちながら共に生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	受診時一緒に付き添ってもらったり、ドクターの話を聞いてもらったり、他科受診をお願いしたり、協力しながら本人様を支える関係づくりをしている。日々の暮らしの様子を伝え、知ることで、離れていても家族も同じような思いをもってもらっていることがある。	○	面会回数が少ない入居者様に対しては、電話報告などをして本人様とも話し合ってもらうなど支援し、ふれあう機会を増やしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的に面会ある人もいれば難しい人もいる。手紙やはがき、電話等で関係が疎遠にならないような手伝いをしている。家族参加型行事の案内状を出したり、花見等で一緒に外出を呼びかけたりと家族に働きかけている。電話の希望があれば、連絡をとり、関係が途切れないようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの病院、美容院など家族様の協力を得ながら支援している。また、毎月墓参りを続けている利用者もおり一人ひとりの生活習慣を尊重している。家族様との外出や外泊なども、体調について情報交換しながらおおいに勧めている。	○	短時間でも家族様と外出する機会が増えるように働きかけていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりのコミュニケーションの特徴を把握している。孤立しないように、職員が間に入り、友好な関係や互いに助け合う関係づくりを支援している。仲よし同士がお茶に誘い合う場面など、微笑ましく見守りながら、支援している。	○	三味線や、和裁、編み物等、入居者一人ひとりの趣味を活かしたり、得意な事をして頂いている。また、役割分担を通して、入居者様同士の関係も築けるよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	折々に様子を聞いてあげたり見舞ったり、電話や年賀状で家人様と交流したり、挨拶やふれあう関係を続けている。退所された入居者に対しても、当時の写真や、職員、他の入居者からのメッセージを書いた色紙を渡している。また系列病院や施設に入所されている場合は定期的にお見舞いに出掛け関係を保てるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「サービス計画書」の利用者意向欄には、なるべく本人様に記入してもらっている。もしくは思い・意向を傾聴し、できるだけ近い言葉で記入している。日頃の会話の中や表情・行動からもヒントや思いが聞こえてこないか気を付け、希望・悩み等を引き出す努力をし、職員間で共有している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などご本人やご家族を通して、状態や生活スタイルの把握に努めている。しかしながら、入所者されてからも生活歴や生活環境等のライフスタイルの情報収集を行っている。新たに分かった情報は入居者台帳に追記した上で、職員全員に申し送っている。	○	情報収集の為に必要以上プライバシーに踏み込まないよう留意していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「介護観察記録」で一日の心身状態の把握に努め、「ケアチェック表」で個人に応じたプランの評価を毎日チェックしている。また「役割分担表」で本人のできることを把握している。基本的には本人がしたいようにしてもらっている。	○	できないことより、出来るケアに注目して生活意欲を活かす方法を意識するようになっていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別プランを立案し、入所者一人ひとりの生活リズムや思い、要望を反映させるようにしている。利用者主体とするため、ニーズを把握し、「～したい」と本人様が望むケアプランへと取り組んでいる。スタッフ全員で意見を出し合い、介護側も「～したい」のプラン作成を心がけている。	○	これからもミーティング時、職員は介護計画に基づいた共通の目標を確認していく。また、知り得た情報は共有し更なるケアの向上に努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人様の意向、家族様の意向を尋ね、ケアプランに活かせるよう努めている。また、ADLが大きく変わった時、プランに無理が生じた時、そして定期的に計画を検討し、新たな計画については本人様、家族様に説明して、同意を得るようにしているADL変化の少ない入居者についても、3ヶ月毎に計画書を更新し、コピーして家族様にお渡ししている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタルや状況観察に努め、「介護観察記録」「生活記録」に記録し、職員全体で状態を把握することにより、状態変化に応じた計画作成に取り組んでいる。水分量、食事量、排便の有無など、体調変化に早く気づくと共に、適切な対処を心がけている。各入居者様の担当制にしており、より細かなケアができるよう状況把握に努めている。	○	ケアチェック表で1ヶ月の評価を担当者が行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居にあたり、不安を抱えている人に対しては、体験入所をしていただき、入所困難な場合、適切な居場所やサービス紹介など支援している。医療連携体制により、毎日馴染みの看護師の訪問があり体調を看たり、Drへの相談なども24時間体制にある。	○	身体の状態によりリハビリが必要であれば系列病院のリハビリに通う支援をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の保育所との交流やボランティア受け入れ、研修生受け入れ等を行っている。近所の方より花や布地などの提供を受け、入居者様の楽しみや、裁縫などに使わせてもらっている。家族の一人が警察官ということもあり、色々アドバイスや協力を得ている。	○	今後は、小中学生との学習となるような場を考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の申し出により地区の馴染みの訪問理容サービスを利用している。散髪やヒゲの当て方など、本人の希望通りに応じてくれる。出張パン屋も希望日に来てもらっており、好みの品を選んだり、お金のやり取りをしたり、おやつにも使っている。本人の希望により、送迎サービスを利用してリハビリに通われている方もいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、アドバイスを受けている。家庭裁判所への申し込み、公証人手続きなど、必要な情報を収集している。他の取り組みについて、よい取り組みや応用できる取り組みについて模索している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に専門の科がない場合、家族様をお願いをし、受診していただくこともある。家族の都合のつかない場合、急な受診の場合などは職員が代行することもある。入居前からのかかりつけ医があれば、希望を尊重して受け入れている。病状が悪化しないよう、早めの対応を心がけ、受診結果は家人・職員共に共有している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携医療機関に相談できる体制にある。認知度や対応についての指示や助言をもらえる。また、入所にあたっては家人様も立ち合ってもらい、認知症であるかどうかの診察をうけている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関があり、電話相談や訪問相談にも応じてもらっている。医療連携体制により、毎日なじみの看護師による訪問・相談・支援が受けられる。その為、協力医療機関との連携も密にとれる体制となっている。	○	介護職員と訪問看護ステーションの看護師とはいつでも気軽に相談できる関係ができています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関にて入院を受け入れていただいていると共に、医療連携室を通して、適切な入院医療機関他の紹介をうけている。また、グループ施設連絡会議で回復状況を尋ねたり、Drや家族とも情報交換しながら、退院から帰設までの支援をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	カンファレンスや受診時の報告、チームケア報告書を作成している。日頃から本人様、家族様とコミュニケーションをとり、何度も意向を確認しつつ、職員間で情報を共有している。しかしながら決定場面では、家族様とDrとの話し合いで決定される場面も多く、今後の課題としたい。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護が重度化してきても症状の変化に伴い、今後の方針を治療が必要かどうか見極め、協力医療機関と連絡相談を密にして、十分な検討を行い、本人様の意向にそえるよう、家人様と協力しながら、支援している。重度化してもすぐ退所をせず入居を継続しながら訪問看護により点滴などの処置や診察を受けたり、チームケア報告書にそった介護が受けられる。	○	終末期にむけて職員の連携、他の入居者への影響等、様々な事を考慮し、体制づくりに取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	紹介状・サマリー・入居録などから、個人の情報を十分申し送り、住む場所が変わっても同じようなケアの継続が得られるようサポートしている。また、お気に入りの物が目に付く所にあるよう、また、取り出しやすい場所にあるよう、不安軽減に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者一人ひとりに気を配り、プライバシーを損ねないよう介助している。また、個人情報保護管理委員会で保護法の理解に努め、毎日の申し送り時にも、個人名などが他に漏れ聞こえないように配慮し、意識づけをしている。プライバシーに関することは職場を離れても話さないよう注意しあっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出時のメニュー選びや買い物など、入居者の希望を聞いたり、選んでもらうようにしている。役割についても話し合いをして、分担表を作成している。日頃から入居者様の個々の意見が出るよう信頼関係に努めている。	○ 職員の決めたことをやってもらうのではなく、入居者一人ひとりの出来る事への支援や、複数の選択肢を準備し、入居者自身で決められる場面を提供していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースや生活リズムを尊重して支援するとともに、日々の生活の中で入居者の喜怒哀楽に関心を寄せ、一緒に過ごすようにしている。また、入居者の希望を表したりする事を大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族様と一緒に外出し、長年利用している美容院へ行っている方もいる。整容の乱れはさり気なくケアし、おしゃれを楽しんでいただけるように支援している。思い思いに口紅やファンデーションを塗り楽しんでいる。毛染めの希望があれば、毛髪の色を変えたりと支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(調理、盛り付け、配膳)片付けを一緒にしている。食事中は、職員も同じテーブルで同じ物を食べ、テレビを消し、職員と一緒にゆっくり食事をし、会話も楽しめている。固い物が苦手な方には、断りを言って、小さく刻んだり、すり下ろして、食べやすくしている。	○ 好きなメニューを聞き、時々献立を替え、リクエストの多いちらし寿司を作ったりし、食事を楽しんでもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は入居者様の嗜好物を理解しており、本人様の状態に合わせておやつや食事を提供している。食材を購入する時は、入居者も一緒に行っていただき、希望を聞いて選んでいただいている。時々、ふれあい喫茶を開き、好きな飲み物(コーヒー・紅茶・あめ湯・ココア等)を注文し、喫茶店で過ごすような雰囲気も楽しんでもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	声かけや早めの誘導で、失敗のない排泄支援をしている。自然な排泄、自立への支援をしている。後始末も目立たなく、さり気なく、素早く、対応できるよう気をつけている。プライドを傷つけないよう、配慮している。	○	紙パンツを使用しないで済むよう、1日2回布パンツを交換する方もおり、清潔保持に努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中だけではなく希望を聞いて、夜間入浴もしている。体調に合わせて、順番が片寄らないよう配慮している。拒否される方には、足浴で対応したり、熱め、ぬるめ、長湯などできるだけ希望を聞いた対応をしている。時々入浴剤も使用し、気分転換を図っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、日中は活動できるよう支援している。不安があれば、温かい飲み物を出したり、話かけるなど安定した眠りにつけるよう支援している。本人様の状態に合わせて、暑がりの方には、アイスノンを使用したり、また、冷暖房の調節をして安眠していただけるよう配慮している。	○	今後も、一人ひとりの体調や表情や希望を考慮して、ゆっくり休息が取れるよう支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力に応じた役割分担表を作成している。無理強いないで、楽しみ事や出番を見出せるようにしている。切り干し大根や、干し柿作りなど経験してきた事を活かした場面を作っている。また、お接待用の巾着づくりを入居者のペースで仕上げている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、入居者本人に管理してもらうようにしている。管理できない入居者はホームが預かり、一覧表の作成もしており、また希望に応じて買い物時など、好きな物を買っていただくよう支援している。残金は、家族様にサインしていただいている。預かり金チェック表やお小遣い帳を作成し、何を買ったか分かるようにして、レシートを貼り付けている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食やドライブ、買い物等出かける機会をつくらせている。天気の良い日には散歩に出かけ、歩行困難の方も車椅子等を利用して外出の楽しみを持ってもらっている。	○	天気・本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらう心身の活性につながるよう日常的に散歩に出かけている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とも相談し、帰宅、墓参りなど一緒に外出することができる。また個別にドライブに出かけている。実現が難しい場合には、写真や映像をみて会話する等の対応をしている。年間行事計画の中に、リクエストのあった外出先を盛り込むなど、家族の協力を得ながら、実現にむけ取り組んでいる。	○	高齢化でADLが低下してきているが、家族様の協力を得て、なるべく外出できるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話できるよう支援している。家族へ、2ヶ月に1回、本人様からの手紙や、年賀状を出してやり取りが出来るように支援している。本人からの自筆のサインが入るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中は玄関を開放し、いつでも来てもらいやすく居室かホールでお茶を飲みゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。家族様に対応に困っている場合には日頃の良い点を中心に話し、間を取り持つようにし気兼ねなくくつろいでいただけるような雰囲気づくりに努めている。	○	防犯の為、18時に一旦施錠しているが、仕事帰りや、家族様の都合に合わせていつでも来ていただけるように伝えている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、勉強会をしている。特に精神面や言葉の拘束等には注意している。身体拘束のないケアの実践を全職員でしている。身体拘束する場合は、同意書に家族のサインをもらい、実施状況の書類も残している。できるだけ身体拘束のないケアを目指している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、ユニット入口ドア付近には、階段や乾燥室があつて、危険なこともあり、手薄になった場合は戸締まりとして施錠している。家族様には、契約時に説明している。入居者様が外出しようとしていたら、止めるのではなく、散歩や買い物等に行き、気分転換を図っていただいている。	○	今後も職員の見守りを徹底し、また一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく把握し、鍵を掛けない工夫を行っていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者が今、どこにいるのか一人ひとり把握し、プライバシーにも配慮して安全に生活していただいている。居室等で過ごされている入居者様へは、できるだけ訪室するよう配慮している。夜間帯での入居者の入眠の把握など、常に対処しやすい、動きやすい居場所をキープしながら巡視している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は詰所の鍵のかかるロッカーに保管している。包丁類は夜間、専用ケースに収納している。洗剤等は、出しっぱなしにせず、一ヶ所に収納して蓋をするなど目立たない工夫をしている。ハサミや爪切り、髭剃り用の電気カミソリなどは利用者が持たれているケースもある。	○	夜間帯はポットを出しっぱなしにせず事務所に保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月に一回、安全管理委員会を開催し、事故発生報告書やヒヤリハット報告書の見直しをし、事故等にあつた経過を職員で話し合い、対策や予防について検討し、事故を未然に防ぐためのルールを取り決めている。万が一、事故が起きた場合はただちに受診し、家族への説明と経過報告を行っている。	○	同じ事がないよう心がけこれからもリスクマネジメントの講習等を受講し、知識を高めていく。繰り返しの指導や意識付けが必要である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	協力医療機関からの勉強会で緊急時の対応の仕方等講習を受けたり、他のGHでの対応の仕方など情報交換をしている。また、AEDの講習会で学んだことを忘れないように自ら学習したり、また、セミナーがあれば受講している。緊急時対応方法の指示、指導をいただける体制も整っている。	○	誤嚥など利用者の身体状態の急変や、事故発生時に的確な対応ができるよう定期的に勉強会を行ってきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルも作成しており、災害時に備えて、年に2回(昼、夜)避難訓練を行っている。防火、防災訓練計画書を消防署に届けると共に、責任者も届け出ている。緊急時、連絡体制あり。	○	災害時、職員は非常招集する旨、連絡網に記載されている。災害時に備えて、非常用食料や備品の充実を図っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	定期的な見直しを職員間で行うと共に、家族会や面会時、一人ひとりに起こるリスクの説明等を行い対応策を話し合っている。	○	自由な暮らしの大切さとリスク、事業所の取り組みを丁寧に説明し、理解を得られるように努めている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の身体状況や症状を把握した上で、異変に早く気づき、適切な対応をとる事の重要性を全職員が認識している。できる限り早期発見で(受診等)重篤な状態に招かぬよう、職員一同が認識し取り組んでいる。	○	夜間でも職員が戸惑わないよう熱発時の対応について書式化している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の使用している薬剤の治療目的、用法、用量、副作用などを薬局よりもらい、個々のファイルに綴じている。定期的に薬受け時に受診し、変調などを伝えている。職員は個々の治療目的を把握しており、服薬を支援している。医師、薬剤師等の連携体制を整えている。	○	便秘薬については、体調に合わせて調節している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューや手作りのおやつで工夫している。水分チェック表に記入し、水分量の少ない入居者様にはお茶だけでなく、飲みやすい品を用意している。体操、散歩、廊下歩行等身体を動かす声かけや誘いかけをしている。自然な排便が個々の健康管理の基本と考え、特に注意している。	○	水分量の少ない方には、牛乳を飲んで頂いたりしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き、うがいの声かけをし、自力でできる人、見守りの必要な人、介助の必要な人への支援をしている。特に口腔内の清潔保持は身体の健康保持に最重要と認識を持ち、重点を置いて取り組んでいる。(月、木と一週間に2回、ポリデント洗浄を行っている。)	○	歯についての院内勉強会等もあり職員全員が口腔ケアの大切さを理解している。また無料訪問歯科検診を受けたり、これからも入居者様の口腔ケア向上に繋げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院や栄養管理士に摂取カロリーや栄養バランスを考えた献立を作っていただいている。介護観察記録に水分量、食事量のチェックを行い、一人ひとりの状態を把握している。お茶が嫌いな方に関しては、好きな飲み物(ヤクルト、牛乳、あめ湯、しょうが湯、ココア)をお出しするようにし、味を変えた工夫をしている。	○	本人希望や義歯の調子を考慮し、主食をお粥や柔らかめのご飯に変更したり、水分摂取量が少ない方に対しては別の飲み物を出したりと個別支援をしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに沿った対応で、手洗い、うがい、消毒など実施。食器は殺菌、布団干しなど実施。感染症に対する勉強会など参加している。常に新しい知識の習得を心がけている。予防だけではなく、罹患した場合の対応策もマニュアル化している。職員は全員が、入居者は希望者が毎年インフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の掃除、食器の洗浄、食品の新鮮管理、布巾の除菌など衛生管理に努めている。職員間で注意し合い、意識向上に努めている。見た目だけでなく、除菌剤(ハイターなどの塩素剤)で洗浄を行っている。また、賞味期限のチェックや定期的に冷蔵庫内の掃除も行っている。その他キッチン周りには週に1回のアルコール消毒を行っている。	○	食材管理、除菌には常に気を付けており、グループ内の勉強会や衛生管理委員会を通じ、職員全員が周知している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花を置いたりして、家庭的で暖かい雰囲気づくりに気を配っている。賑やかで明るく楽しい空間づくりを目指し、訪問者も入居者も職員もみんなが笑顔で過ごせるよう明るい挨拶で対応する。屋内、外とも明るい色調でまとめ、木目調が効いた家庭的で暖かい雰囲気となっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングには机、椅子、ソファがあり使いやすい配置がされている。季節感を感じられるよう、その時期に合わせて飾りつけもしている。	○	ホールの飾りつけは職員だけがするのではなく、入居者様に塗っていただいた物を掲示するようにし一緒に作り上げている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には、馴染みの持ち込み品等があり、共用空間はリビングで思い思いに過ごせるように工夫されている。また、廊下にはソファを置き、窓から外の景色を眺めたり、部屋やホール以外でも気のあった方と一緒に過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ダンス、時計、テレビ、じゅうたん等馴染みの持ち込み品があり、共用空間にはリビングで思い思い過ごせるように工夫されている。居室には家族の写真を飾ったり、通院日に印がしてあるカレンダーを掛けていたり、使い込んだソファを置いている方もいる。化粧品の大きな鏡を持ち込まれている方など、それぞれ個性が見える。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	部屋やトイレの換気扇を回したり、一定時間、窓やドアを開放して風が通るようにしている。冷暖房はつけっ放しにせず、細かくスイッチをON、OFFにしている。また、乾燥しすぎる事のないよう気をつけている。居室等については、入居者の選択を優先し、入居者の感覚で温度調節している。	○	ポータブルトイレ使用の方はお部屋の芳香剤を使用したり、チェックを頻回にし早めに洗うなど、嫌なおいがない清潔感あふれる雰囲気大切にしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に、自立した生活が送れるよう、滑り止めマットの実施、浴槽の手すり、流し台の使い勝手の工夫もしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	手作りの日めくりや、季節に応じたホームの飾りつけや、目印など一人ひとりの状態に合わせ工夫し、自分の力で動ける環境づくりに取り組んでいる。役割分担表を作成しており、洗濯や調理の得意な人が役割意識を持ってお手伝いできるように声かけし、上手く力を発揮してもらおう場面を作っている。	○	入居者全員が何らかの役割を持って、できることを自ら行ってもらえるようにしている。しかし、役割の少ない方に対して職員一同で再度話し合い、活動の場が広がるよう環境整備を行っていききたい。個々の生活リズムを把握するとともに、生活意欲が沸くように支援していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターでは野菜や、花を育てており、水やりができるよう配慮している。玄関周辺にも鉢植えを置き、季節の花を植えたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中、入居者様と職員がお互いに助け合いながら生活を送っている。散歩中での挨拶や鮎喰川の堤防清掃、町内の溝掃除などを通して地域の方とふれあうことにより、顔なじみになっている。また、実習生やヘルパー研修の受け入れを行い、交流を図っている。1日の生活の流れや、個々のリズムを大切に、身体に無理がない範囲で本人様の好きなように過ごしてもらっている。季節や昔の塗り絵、計算問題等をして認知症の進行防止に繋げると共に、手足の筋力が低下しないよう重錘バンドをもちいて、その人にあった回数で筋トレをしていただいている。料理の得意な方や、編み物、縫い物（お接待用巾着）、三味線が好きな方がおられ、個別性を重視した効果的なプログラムを取り入れている。また、本人様ができることはできる限り自分で行う事を基本に、できない事は職員が埋めていくよう、入居者様主体の生活を心がけている。食事作りや洗濯干し、花の水やり、食材の買い出しなど役割を持つことにより生き活きとした笑顔が見られている。入居者様のしたい事を見逃さないように職員間で話し合い実現できるように取り組んでいる。住宅地の単独施設と言う事もあり、クリニックやまごころ訪問介護との医療連携体制をとっている。入居者様の状態を把握していただければ、職員からの相談を聞いていただくことができ、急変時にはすぐに対応できることで、入居者様も家族様も安心した生活を送ることができている。家族様からも、「ふれあいにいたら安心です。」「ふれあいに来てから、積極性ができた。我が家と思っている。」と嬉しい言葉をいただいている。